

多摩川あれこれ

質問事項	回答
水源から海までの長さは、どれくらいありますか？	源流の山梨県笠取山から河口の羽田沖の東京湾まで、全長138kmあります。流域面積は1,240km ² で、山梨、東京、神奈川県を流れる一級河川です。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川は日本の一級河川の中で何番目に長い川ですか？	全国にある109の一級河川の中で、多摩川の幹線流路延長は138km、25位となります。また1位は信濃川367km、2位は利根川322km、3位は石狩川268kmとなっています。なお以上の数値は、全国の一級河川109水系の支川を除く本川のみでの延長を比較したデータです。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川で最大の川幅の場所を教えてください。	川幅は、堤防と堤防の間(天端)で一番広いところ(但し支川合流部を除く)の長さです。河口部が一番広く、約620mあります。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川の深さは何mぐらいですか。また、大雨がふると深さは何mになりますか。	多摩川の深さは、場所や時間等により常に変りますが、例えば田園調布(上)水位観測所(大田区田園調布1丁目、東急東横線鉄橋より300m位上流)では約3.7mぐらいです。それが大雨になると、9月に約8.2mぐらいの深さになった時もありました。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川の流れの速さはどのぐらいですか。	速さも場所や時間などにより常に変りますが、例えば石原流量観測所(調布市多摩川三丁目、多摩河原橋下流側)では普段は約毎秒0.3~0.4mですが、速いときは約毎秒3.3mというデータがあります。地形により速さが変わる原因としては、川底面の勾配が急であると速くなり、平坦に近くなると遅くなります。一般的に山間部や上流は勾配が急であり、海に近くなると平坦になってきます。また、川幅が狭いと速くなり、広くなると遅くなります。川の曲り角ではカーブの外側が速くなり、内側は遅くなります。これらの組み合わせで、例えば上流で川幅が狭い場合はより速くなります。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川は日本の「名川百選」に指定されているのですか？	名川百選はありませんが、環境省選定の名水百選の中に御岳溪流が選ばれています。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)
多摩川の上流はどんな所ですか？	多摩川は、山梨県甲州市の笠取山(標高1953m)を水源とし、東京湾に注ぐ流路延長約138km、流域面積約1240km ² の河川です。笠取山から約64kmは奥多摩の山地を平均1/27の勾配で一気に下り青梅で平野に出ます。また、中間には東京の水がめとなっている小河内ダムが造られています。この山間部を流れ出た水の大部分は、青梅から下流約13kmにある羽村堰で東京の水道水として取水されています。多摩川の源流は河川の地形的区分では、一般に青梅より上流の山間部を指しますが、東京の水道の源流という意味では羽村堰上流の区間とその流域と捉えることができます。羽村堰上流の源流域の面積は約487km ² で、そのうち上流側の43%は山梨県、下流側は東京都に属しています。また、流域の90%以上は森林で、約半分がイヌブナ、モミなどの天然林、残りはスギ・ヒノキ・カラマツなどの植林地とし維持管理されています。これらの森林地帯は、青梅上流の一部区域等を除いた大半の区域は秩父多摩甲斐国立公園及び、水道涵養保安林等に指定され自然環境の保全が図られています。さらに、この流域の44%(216km ²)に及ぶ広大な森林は東京都の水道水源林となっており、東京都水道局が直接、水源涵養機能を重視した管理を行っていることが大きな特徴です。また、源流域の山梨県小菅村、丹波村及び、東京都奥多摩町等では林業理や観光の拠点として約1万人の方々が生活していますが、森林の維持管理のみならず、集落下水道などを積極的に整備することにより清流を守っています。このように多摩川の源流は、東京都の水道水源林を主体にして源流の保全が図られ、美しい渓谷と美林に彩られた地域が形成されています。なお、この美しい渓谷と緑を舞台に「多摩川源流研究所」が活動しています。興味のある方は(http://www.tamagawagenryu.net)へお問い合わせください。

<p>中流部は、どの辺りになるのですか？</p>	<p>に、決まってはいいのですが、大体世田谷区の東名から府中市の四谷辺りまでが中流部になります。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)</p>
<p>多摩川の持ち主は誰ですか？</p>	<p>川は、私達が生活する以前からとうとうとして流れていた自然です。また、川は一般的には、水の流れと一体になった土地や自然をさします。この川の水と自然の恵みにより、私たちの生活が築かれてきました。さらに、大きな台風などによる洪水を防ぐために、長い時間かけて多くの人々の懸命な努力が続けられてきました。このような水と土地を一人一人の都合で使ったとしたら大雨のたびに水があふれたり、あるいは下流で水がなくなったりするなど大混乱することは明らかです。このため、川は“みんなの共有のもの「公物(こうぶつ)」としてルールを設けて適切に使うことが必要になります。川は、河川法という法律によって、洪水への対策の方法や土地、水などを適切に使用し管理するためのルールが定められています。ただし、川は、「公物」ですから川で遊んだり散歩したり水遊びをするなど他の人に迷惑をかけない範囲では自由に使用できること」が基本となっています。また、川は道路と異なり豊かな流れとともに砂利やヨシ・オギなど植物や魚・鳥など多くの自然に恵まれていることが大きな特徴です。このような多くの自然を含めて「公物」としてみんなで守り育てていくことが大切になります。このような性格を踏まえ、多摩川の場合には河川法にもとづき、国の重要な河川として国土交通大臣が維持・管理しており、その具体的な仕事は「関東地方整備局京浜河川事務所」が行っています。</p>
<p>1級河川と2級河川の違いを教えてください。</p>	<p>級河川は、大臣が指定していてそれに基づいて国が管理をしていて、とても重要なものとなります。2級河川は、県が管理をしています。多摩川の源流部になると、都の管理となり、多摩川全体を国が管理をしているわけではありません。 (回答:国土交通省京浜河川事務所)</p>
<p>多摩川にワンドはどのくらいあるのでしょうか？ また、その分布図みたいなものはどこにいったらてにはいるのでしょうか？</p>	<p>ワンドという言葉は、河川のどの部分をさすのか厳密な定義はありません。一般には、川の水面流れが岸側や上流側に窪んで入江状になった部分を指しています。この入江状の部分は、川の流れの跡や護岸などの影響により自然にできます。このようなワンドは多摩川の各所に大小さまざまなかたちで分布し、刻々と変化しており、数えるのは困難です。近くの多摩川に出て、入江状になった場所を探してみてください。また、ワンドは流れがないので魚などの格好な産卵の場所や増水時の避難の場所となるため、近年、自然環境の回復のために人工的に造成される場合もあります。多摩川では、二ヶ領上河原堰下流左岸の上河原ワンド、日野用水堰上流左岸の昭島水辺の楽校のワンドなどが代表的なものです。自然にできた大きなワンドなどは航空写真で判読できます。多摩川の航空写真は二ヶ領せせらぎ館の床に印刷されておりまして、多摩川を管理している国土交通省京浜河川事務所でも閲覧できます。航空写真からワンドを探してみたいかでしょうか。 (回答:淡水魚類研究者の君塚芳輝氏と相談し作成)</p>